

名 称	田村市常葉町体験活動・ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒963-4602 福島県田村市常葉町常葉字町裏1番地
連 絡 先	TEL : 0247-77-2013                      FAX : 0247-77-2056 URL : <a href="http://www.city.tamura.lg.jp">http://www.city.tamura.lg.jp</a>

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口    常葉町   6, 3 9 1 人（田村市   4 2, 3 5 1 人）

「あぶくまの人、郷、夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」

田村市は、福島県の中東部に位置し、平成17年3月に田村郡7町村のうち、滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町の旧5町村が合併して生まれた新しい市である。阿武隈山系が南北に走り、大滝根川や高瀬川などの多くの河川がこの地域を水源として流下する豊かな自然環境に恵まれた高原都市である。

中でも、8, 0 0 0 万年という歳月をかけて創られた大自然の造形美「あぶくま洞」は、様々な鍾乳石がおりなす神秘の世界が広がり、多くの観光客が訪れている。

また、常葉町においては、この自然環境と葉タバコ生産の過程から出るカブトムシの幼虫を使った町おこしで、「カブトムシのふるさと」としても広く全国に知られている。

近年は磐越自動車道などの道路交通網の整備が進み、JR磐越東線とともに県の東西を結ぶ重要な交通拠点となっているが、中山間地域ということもあり少子高齢化が進んでいる現状にある。

こうした中、未来を担う人づくりを目指して、家庭・学校・地域・行政が連携・協働した「市民参加の教育づくり」を推進するとともに子育て環境の充実を図るため、保育所及び幼稚園の保育料無料化などの子育て支援事業を積極的に推進している。

## 事業の名称、活動概要

名称    ゆめきりん文庫（巡回図書・読み聞かせ）

ゆめきりん文庫の「ゆめきりん」は、ボランティアの方々が付けたネーミングで夢を大きく持ち、好奇心でどんどん成長していく様を麒麟（首が長く伸びる）に例えている。

この事業は、小学校における図書の充実と読書活動の推進を図り、子どもが本に親しむ機会をつくるとともに子どもたちの豊かな感性と生きる力を育むことを目的としている。

また、家庭・地域・学校・行政が連携を取り、巡回図書・読み聞かせ・民話語りなどの事業を展開することで、学校の教育活動の充実と地域教育力の向上を目指している。



学校図書室内に置かれた「ゆめきりん文庫」

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

平成17年1月に常葉町図書館（現田村市図書館常葉分館）が開館し、住民の読書環境が整備される中、学校図書に関しては厳しい財政状況の中で整備が遅れている現状にあった。町内には4つの小学校があるが、声掛け事件などの児童を取り巻く社会情勢の変化や地理的な問題もあり、なかなか容易に足を運ぶことができないため、図書館の開館を機に図書館（公民館）・学校及び地域のボランティアが連携・協力し、巡回図書の「ゆめきりん文庫」を各小学校に設置した。

また、様々なメディアの普及により読書離れが指摘されている今日、読み聞かせを学校の教育活動に組み入れることによって、子どもたちが本に親しむ機会をつくるとともに読書の習慣化を図るという大きなねらいの下、地域の人材を掘り起こし、ボランティアとして読み聞かせや選書を行っていただくことで、学社連携・融合の推進と地域教育力（地域の子どもを地域で育てる力）の向上を目指すこととした。



ボランティアによる読み聞かせ

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

図書館業務の担当が公民館であったため、図書館の開館を契機に新たな事業を模索する上で、支援センターのコーディネーターとともに検討に入り、巡回図書及びボランティアを活用した読み聞かせを実施する事業展開を企画をした。

その後、コーディネーターを中心に学校への働きかけを行い、事業説明並びに学校の教育プログラムへの組み入れと事業運営の連携・協力を依頼した。

また、支援センターのボランティア登録者の中から本事業に関連する支援内容の方に協力依頼するとともに、PTA及び地域の人材の掘り起こし（勧誘）を行い、ボランティアの登録を促した。

さらに、事業実施に伴い、学校から希望する日程を年間計画表として提出してもらうとともにボランティア協力者の研修を兼ねた打合せ会並びに定期的な情報交換の場を設定した。

## ② 活動の展開内容（活動段階）

各小学校の教頭先生並びに学校図書担当の先生とコーディネーターが相談し、学校ごとの実施方法について検討を行い、現在では、常葉町内にある4小学校1児童館を対象に、月1回約30分間の読み聞かせ又は民話語りを実施している。その際、ボランティア2名が1組となり巡回図書の入替えも行っている。

現在では、ほとんどの学校において、児童が中心となり、おはなし会（読み聞かせ・民話語り）として会を進め、「ゆめきりん文庫」の本の入替えも児童が行っている。

各事業の概要は次のとおり

### ○ゆめきりん文庫（巡回図書）

ゆめきりん文庫の本棚（カラーボックス）を学校に設置し、ボランティアの方々が図書館（常葉分館）で選書を行った本（児童書30冊）を持参し、入替えを行っている。

本の貸出・返却等については、学校図書と同様に先生方の協力を得て実施しているが、図書館への返却についてはボランティアが行う。



ボランティアによる読み聞かせ

### ○読み聞かせ（ボランティア登録者12名）

持参した「ゆめきりん文庫」の本の紹介をした後、ボランティアが自身で選書した本の読み聞かせを行っている。

### ○民話語り（ボランティア登録者5名）

読み聞かせ同様、持参した「ゆめきりん文庫」の本の紹介をした後、ボランティアが民話語りを行っている。

また、読み聞かせボランティアの中で興味を持った方々が集い、自主的に民話語りの勉強を始めた経緯もあり、コーディネーターがサポートしながら月1回公民館においてスキルアップのための勉強会を開き定期的に活動している。



ボランティアによる民話語り

このほか、幼稚園や学校はもちろんのこと文化祭や商工まつりなどでも活用したいとの要望があり、住民への認知度が高まるにつれて活動分野が広がりつつある。

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

学校・ボランティア協力者・支援センター間において、事業運営に関する協議・打合せを重ねるとともに半年に一度、学校及び児童・保護者に対しアンケートを取ることで情報を共有し、連携・協働の方向性を確認することができた。

また、ボランティア活動中に起こり得る事故等について危惧される部分（車の事故等）があったが、公民館（支援センター）事業として実施することで公民館総合補償制度の適用が可能となった。

さらには、合併により常葉町図書館は田村市図書館常葉分館となり、2年目以降業務が公民館から図書館本館に移行されたため、事業への協力を求めたが専門的な知識・見解から意見の相違が生まれた。本事業のねらいを考えた場合、ボランティアの方々が主体的に取り組む体制をつくるため、あくまでも公民館（支援センター）単独事業として継続することとした。

#### 《留意点》

- ① 本の選書は、ボランティアの方々が主体的に行い、子どもたちに読んでほしい本を選ぶよう配慮する。
- ② 専門的な知識にとらわれることなく、ボランティアの方々の児童・学校・地域へ対する思いと主体性を尊重し、コーディネートする。
- ③ 事業運営に関して共通の理解を持てるように情報の共有と定期的な意見交換の場を設ける。
- ④ 幼稚園で行われているPTAを主体とする読み聞かせボランティアと連携を取り、卒園後においても継続的に活動していただけるよう働きかける。



ボランティアによる選書の様子

### 事業の成果と今後の課題

#### 《成果》

地域の幅広い年齢層の方々がボランティアとして協力していただいております。地域の子どもたちとの読み聞かせを通じた交流が、児童・学校及びボランティアの方々から大変喜ばれている。

毎月一度の限られた時間ながらも、継続的な活動及び新刊図書を子供たちに紹介できるメリット



熱心に聞き入る子どもたち

もあり、子どもたちの読書への関心が高まっている。また、ボランティアの方々も、読み聞かせや民話語りの勉強会を自主的に進める人もおり、自身の学習意欲も高まっている。

#### 《課題》

本事業を展開する上で、図書館の協力は必要不可欠なものである。しかし、図書館の考える読み聞かせの在り方（スキル重視）と公民館のとらえ方（触れ合い重視）に隔たりがあるため、その溝を埋めるための共通認識と相互理解が必要である。

また、常葉分館における年間2,000冊の購入図書と合併して図書館間の相互貸借が可能となった今、それらを最大限に活用できる新たな事業形態を模索し、学校のみならず家庭・地域・行政・他機関を含めた地域教育力の向上に向けた更なる連携・協働の事業展開が求められる。

執筆者職・氏名：田村市教育委員会 常葉教育分室（常葉公民館）  
主査兼社会教育主事 白岩 孝志

#### コーディネーターからの一言コメント

学校の教育プログラムへの組み入れと児童中心のお話し会など学校との連携がとても良い。ボランティアの自発性・自主性をうまく生かしている。これを大切にしながら公民館の講座でスキルアップを図るなどを工夫するのはどうか。

（橋本 洋光）